Pollen-food allergy syndrome and component sensitization in adolescents: A Japanese population-based study.

出典　PLoS One　2021;16(4):e0249649
(https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33852622/)

著者　Kiguchi T　et al.

調査地域　東京都

調査時期　2004年～2006年に登録した出生コホートを13歳まで追跡

調査対象　13歳

依頼数　1550人

有効回答数または回収率　13歳時点での質問紙調査46.8%（726人）、血液検査32.7%（506人）

診断方法　ISAAC及び独自の質問票

有症率　花粉症（hay fever）は56.0%、花粉アレルギー（pollen allergy)は53.0%

調査概要　東京都の出生コホートを13歳まで追跡して、13歳時点での花粉症、花粉アレルギー、OAS、PFASの頻度を調査している。